



プリンスオブソクラ大学医学部附属病院における
がん看護の現状

メタデータ	言語: jpn 出版者: 宮崎大学医学部看護学科 公開日: 2013-07-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田村, 真由美, Tamura, Mayumi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10458/4575

プリンスオブソクラ大学医学部附属病院における がん看護の現状

Cancer Nursing at Songklanagarind Hospital, Prince of Songkla University

田村真由美

Mayumi Tamura

キーワード：PSU附属病院，看護教員，がん看護

Prince of Songkla University Hospital, Faculty of nursing,
cancer nursing

はじめに

宮崎大学医学部とタイ王国のPrince of Songkla University (以下PSU) 看護学部は、2010年2月に部局間での交流覚書を締結し交流を図ってきた。毎年2～6名の学部生および大学院生、1～2名の教員が相互に訪問し交流を深めてきている。

著者は2012年3月16日から3月28日に、PSUの看護学部と医学部附属病院であるSongklanagarind Hospital (写真1)を訪問した。目的は PSU看護学部における看護教育と研究の現状を知る。附属病院におけるがん看護について学ぶ。 PSU看護学部と宮崎大学医学部看護学科とのstaff and student exchangeを通じた学術・学生交流の促進。とし、学部教員からの講義、施設見学、大学院講義への参加、病院の見学を行った。病院ではHematological Medical Unit (血液内科病棟)、Chemotherapy Center (化学療法センター) Division of Therapeutic Radiology (放射線治療部)、Medical ICU (内科集中治療室)、Holistic Center for Cancer Study and Care (がん研究および治療統合セン

ター)などを訪問した。

訪問を通して強く印象に残ったことは、人々に根付いた宗教と家族を大切にするタイの慣習の存在であった。“患者の尊重”や“家族看護”は「看護学」という学問としてというよりは自然な形でがん看護に取り入れられていた。この2つは看護者の基本として重要なことであり、タイにおける看護に学ぶべきことであると実感した訪問であった。本稿では附属病院におけるがん看護の現状を中心に報告する。



写真1 Songklanagarind Hospital

I. タイ王国のがん事情

タイは大きく4つの地域に分かれる。中心都市は中央に位置する首都のBangkok, 北部のChiang Mai, 北東部のKhon Kaen, 南部のSongkhlaであり, 医療圏もほぼ同様に分かれている。今回訪問したPSUは南の地域をカバーしている。

タイの人口は約6700万人, 看護師数は約14万人(看護師・保健師・助産師の区別はない), 医師数は4万人弱(Health Status and Health Problems of Thai People, 2008年)である。

タイにおける死亡原因は1995年には循環器疾患, 不慮の事故, がん, AIDSの順であったが, 2001年にはAIDS, がん, 不慮の事故, 循環器疾患の順となり, 2004年にAIDSを越えて, がんが一位となった。2009年時点での人口10万人当たりのがんによる死亡は87.4である。男女別, 部位別の罹患は, 男性が肺がん, 大腸・直腸がん, 肝・胆道系がんであり, 女性が乳がん, 子宮頸がん, 大腸・直腸がんである。特に乳がんは女性の全がんの約半数を占める。がんの治療法は外科手術が34.5%, 化学療法31.6%, 放射線療法17.7%, 支持療法7.8%などである(National Cancer Institute Thailand NCI, 2011年)。

II. PSU看護学部およびSongklanagarind Hospitalの紹介

PSUはタイ南部では最も古い大学で1967年に開設され, 28の学部, 2つの短大を持ち5つのキャンパス(Hatyai, Pattani Campus, Phuket Campus, Surattani Campus, Trang Campus)から成り, 学生数は約37,000人である。今回訪問したのはHat Yai Campusで, 看護学部, 医学部, 歯学部, 薬学部, 工学部, 理学部, 経営学部などの学部と附属のSongklanagarind Hospitalがある。

看護学部は1972年に看護短期大学として設立され, 1980年に看護学部となった。4年制の学士課程は1学年200名で, 修士課程, 博士課程が併設されている。大学院には社会人が職業を持ちながら学べる特別コースも設けられており,

Songklanagarind Hospitalの看護師も在籍しているとのことであり, 病院の看護の質の向上に寄与している。

Songklanagarind Hospitalは1982年に, 政府の政策に従って, タイ南部の14の地方の人々に高いレベルの医療を提供するために開院した。目的は 医学生, 看護学生および他の医療関係者の臨床実習の場所とする。タイ南部の人々への疾病予防, 診断・治療などの医療サービスの提供。近隣の病院への診断や臨床検査の支援。タイ南部における公衆衛生関連の問題解決に向けた研究および調査, と掲げられている。

病院は8つの建物からなり, 入院ベッド855床を有し, 産婦人科, 外科, 内科, 小児科, 整形外科やペインクリニック, 鍼治療, 放射線治療, 外来患者の外科治療などを行っている。更に, 心臓, がん, 消化管系および肝疾患の中核的研究センターが併設されている, 「タイ南部のがん患者の治療とケアの中心」である。

III. 附属病院におけるがん看護の現状

1. Hematological Medical Unit (血液内科病棟)

血液疾患の病棟を訪問した。フロア全体は低い壁とカーテンで仕切られており独立した部屋はなかった(写真2)。易感染状態の患者と感染症の患者が混在して入院する病棟に隔離用の個室がないことが問題となっていた。数年前までは化学療法を受けるがん患者の感染が大きな問題であったが, 看護師が中心となって手洗いやマスクをはじめと



写真2 Hematological medical unit

した感染管理を厳重に行うことにした結果、感染症による死亡は減少したとのことであった。昼食前に訪問したが、清潔ケアとして洗面所に行けない患者のために、ヘルパーが手洗い用の水を入れたペットボトルと小バケツを準備していた。

電子カルテが十分に活用されており、Hospital Information Systemを構築し外来との情報共有を行って、「患者サービスの向上」に取り組んでいた。このシステムにより、患者が入院してくる前に外来からの情報を得ることができ、入院前に外来で行われた検査や処置が分かる。血液疾患の患者にとって、治療開始の遅れはしばしば生命にかかわることであり、外来で入院を決定してから入院までの期間を短縮できたことは大きな意義を持つ。また、入院時には患者の情報が整理されているために、入院後直ちにケアが開始でき患者サービスの向上となったとのことであった。

2. Chemotherapy Center (化学療法センター)

化学療法センターは2006年に開設された。診療時間は8時から20時と日本に比べて長い。主な対象疾患は乳がん、肺がん、リンパ腫、婦人科がんなどで、小児も対象である。

定床は22床（7ベッド、15ソファ）で、看護師10名、看護助手3名、薬剤師3名が配属されていた。医師はオンコールで常駐していない。看護師10名の内訳は、外来患者の係6名（教育看護師1名を含む）、小児の患者の係2名と入院患者の係2名で、入院患者の係の看護師は病棟で化学療法があるときは出向いて注射などを行う。

センター内に安全キャビネットを備えた調剤室が併設されており、電子カルテを経由して医師のオーダーを受けて専任の薬剤師が調剤する。一日の治療は50-60例程度で、受診の流れは日本の一般的な病院と同様であり、採血の結果を待って医師の診察を受けた後、センターでの治療が開始されていた。他県から受診し通院が困難な患者は、看護師の紹介により後述するKok Now templeに宿泊することが多いとのことであった。無料で使える患者用のウィッグの準備もあり患者サービスに心がけていた。



写真3 Chemotherapy center内のポスター

抗がん剤の曝露対策は日本で一般的に行われているのと同様で、壁に注意喚起のポスター（写真3）なども貼られており、きちんとした曝露対策が行われていた。

教育ナースは化学療法の新患に対して専用のディスプレイを備えた小部屋で画像や看護師が作成した「ポケットブック」を用いて説明をし、生活などのアドバイスをする。ポケットブックの最後のページにセンターの電話番号を表示し、自宅で症状の悪化などがあれば電話をするように教育している。タイの文化として患者は家族と共に来院するので、教育は家族にも行われており、急変時は近くの病院に行くように家族にも指導していた。

日本で外来治療が一般的であるFOLFOX療法は、外来で中心静脈ポートから持続注射を開始し46時間後に抜針するという治療で、患者が自宅で自己抜針するという方法が一般的である。このセンターの看護師はFOLFOX療法を外来治療として導入しようと試み患者指導を行ったが、ほとんどの患者が清潔不潔などの基礎知識が不十分で患者が自己抜針をすることが難しいために断念したとのことであった。今後国民全体の健康関連の知識の向上が必要な状況であると考えた。

3. Division of Therapeutic Radiology (放射線治療部)

放射線部は治療室4室、オリエンテーションルーム1室からなり、一日の患者数は外来、入院を含め200名を超える。患者が多いときには、治療時

表1. 放射線部における活動

1. サポートグループの活動：木曜日 9:00 - 10:30
2. ヨガなどの補完代替療法 (尼僧)
3. 手工芸 (ボランティア)
4. がんサバイバーとの対話
5. 学生のボランティア活動
6. 新年を祝う会などの開催
7. 教育セッション
1) がんに対する安全なマッサージ法 (看護教員)
2) 健康と料理 (病院栄養士)
3) 内服について (病院薬剤師)

間が22時に及ぶこともあるとのことであった。

ミッションは がん患者・家族にホリスティックで包括的な医療を供給すること - 身体的, 心理社会的, スピリチュアルな問題に対応する。放射線治療を受けるがん患者・家族のQOLの向上, である。

担当の外来看護師は緩和ケアにも重点を置いており, ケアの原則は 患者中心のアプローチ, 学際的アプローチであり, 患者・家族が感情や考えを表現するように促す, 患者・家族への尊敬と権利の尊重, 必要時に患者間の支援を促す, 必要時に宗教活動を促進または組織する, などを看護師の役割として実践していた。病院職員だけでなく, ボランティアや学生, 看護教員, 尼僧などの協力を得て, さまざまな活動をしていた。実際の活動を表1に示す。著者の訪問を知ったボランティアや患者・家族が集まってくれていたが, 外来看護師とのやり取りの中から深い信頼関係がうかがわれ, 放射線看護を越えて, がん看護全体に力を注いでいることを実感できた訪問であった。

4. Medical ICU (内科集中治療室)

Songklanagarind Hospitalには外科, 内科, 呼吸器, 小児などのICUがある。内科のICUは10床で5床ずつ2チームに分かれている。看護師数44名で3交代制をとっており, 8時 - 16時には11名, 16時 - 24時には9名, 12時 - 8時9名のスタッフが勤務しており, 夜勤でも患者と看護師数がほぼ同じであった。広いスペースで落ち着いた環境であった。チーム医療に心がけ医師との連携

を図っており, 新しい患者が入室した際には, 医師と共に病状や予後について説明を行っていた。身体的ケアだけでなくスピリチュアルケアやリラクゼーションにも重点を置き, リハビリテーションも行うとのことで, ICUの壁にリハビリテーションの手順を示すポスターが掲示されていた。家族がそれを見て実施することもあるとのことであった。ここでも, 個室は1室しかなく, 感染管理が問題となっていた。

タイでは仏教徒が約95%, イスラム教徒が4%を占める。患者が信仰に必要な祈りや儀式を行えるように, ICU内へのテーブルコーダの持ち込みや聖職者の訪問を許可し, また室内に祭壇も設けられていた(写真4)。音楽療法も取り入れており, 対象に合った音楽を選んで流すなど細かい配慮をしていた。もちろんテレビも設置されていた。医療者と家族との対話を大切にしており, ICU内に家族のためのコーナーを設けている。地方の患者の家族の中には看護師や医師と対面して話すことを躊躇する家族もあるそうで, そのような家族にはいつでも話ができるようなホットラインを設けているとのことであった。家族用のパンフレットも準備しており, 家族看護というだけでなく, 家族の絆を大切にするというタイの文化の表れであるという印象であった。

集中治療の現場においても患者や家族の意思を尊重するエンドオブライフケアが行われていた。延命処置をしないことになった場合, 十分な配慮を行って安らかな死を迎えられるようにする。



写真4 Medical ICU内の祭壇

ICUに聖職者が入室して、ベッドサイドで家族と共に祈りをし看取ることもある。臨終のガイドラインが整備されていて、それに沿ったケアを行い、自宅での看取りを希望した場合は対象に合わせた手配をして送り出すとのことであった。

5. Holistic Center for Cancer Study and Care Center (がん研究・治療統合センター)

2003年にMedical Oncologyとして設立され、2008年からはHOCCとして「内科的腫瘍学の良質のサービスおよび研究の支援に国際基準を提供する」ことを目的に活動している。ミッションは学際的アプローチでがんの予防、治療、支持療法などを提供しQOLを改善する。タイの南部の医療関係者および一般人に対するホリスティックながん治療に関する情報の提供、である。センター長は内科の医師で、13名のスタッフが所属している。患者の安全、ケアの継続、患者ニーズの充足、臨床研究とトランスレーショナルリサーチ（研究と臨床の橋渡し）を活動の基準とし、ホリスティックケアチームとがん研究チームに分かれている。

ホリスティックケアチームの具体的な活動は、外来患者に関しては、アセスメント、診療、ケアを行っており、化学療法あるいは最良の支持療法を受けるために自宅近くの病院を紹介するシステムも整っている。入院患者の化学療法への支援としては、治療選択に迷っている患者・家族の意思決定支援や、治療を開始する患者への説明などがある。相談や説明のための部屋がありDVDなどを用いて、家族も含めて話をしていく。一人の患者に十人位の家族が同行して、説明を熱心に聞いている様子が印象的であった。緩和ケアカンファレンスや心理社会的・ホリスティックな研究を行い、予防策を含む医療サービスを提供することによってQOLの向上を目指していた。医師、薬剤師、学生などのトレーニングとコンサルテーション、臨床研究を行い研究成果の適用を推進することも重要な役割であった。

がん研究チームは、がん化学療法薬の臨床試験

に携わり、3名の研究マネージャーが配属されていた。がん研究チームの活動は臨床試験のマネジメントの発展、治験審査委員会の開催準備（倫理委員会）、スポンサーとの予算の取り決めと執行、試験対象者の募集、インフォームド・コンセント、プロトコルに従った患者ケア、ケースレポート書類の完成とスポンサーへの提出、であった。臨床試験を受けている患者が来院した場面に同行したが、診察に同席するなどして患者の心身のサポートを行い、臨床試験を受ける患者の安全と安心を大切にしている状況を知ることができた。

6. Kok Now templeの紹介

Songklanagarind Hospitalはタイ南部の基幹病院であり、他県から外来通院する患者も多い。Kok Now templeはPSUの道を挟んだ向かい側にある寺院で、遠方からの患者・家族が宿泊施設として活用している。敷地内に100名程度の患者が宿泊可能な5階建てのビルがある。料金は一泊5パーツ（15円程度）で、管理・運営はPSUの職員とボランティアが行っている。一部屋に10床程度のベッドがあり、患者・家族が生活している。受付近くに無料の飲み物が準備された冷蔵庫が設置されて、トイレも車いすの患者用に作られていた。

この寺院の一室で看護学部の教員がアウトリーチ活動として、週に2回、火曜日と木曜日の18時から19時に「Prayer to promote a peaceful mind in patients with cancer」というお祈りの会を催している。担当している看護学部教員の専門はmeditation（瞑想）関連で、最初に瞑想のメリットなどについてパワーポイントを用いて話し、瞑想をした後でお経の冊子を見ながら全員でお祈りをする。参加しているのは患者とその家族で、乳がんの外来化学療法を受けている女性や患者の子どもも参加していたが、熱心に祈りの言葉を唱え穏やかな時間を過ごしていた。

おわりに

今回のPSU訪問は日本およびタイの多くの方々のご協力により実現した。タイ南部における人々の生活や看護教育および実践の概要を目のあたりにすることができ有意義な訪問であった。病院でのがん看護の状況と新しい知見を得ることができ、PSU看護学部教員の数々の素晴らしい活動も学ぶことができた。今回の訪問で経験したことを参考に、看護教員としての更なる活動についても検討していきたい。

Chaowalit看護学部長、Pleonpit先生はじめ多くの先生方、事務担当のTongさん、Songklanagarind Hospitalの看護師の皆さまに深く感謝いたします。

文献

- Health Status and Health Problems of Thai People,
http://www.moph.go.th/ops/thp/images/stories/Report_pics/CD_ROM53/swf_eng/engslide04.swf
[2012-9-15現在]
- National Cancer Institute Thailand
<http://www.uicc.org/membership/national-cancer-institute-thailand>
- Prince of Songkla University ホームページ
<http://www.psu.ac.th/en> [2012-9-15現在]
- Thailand Nursing and Midwifery Council: Professional Nursing and Midwifery Act Thailand Nursing (1997)
- Vanchai Vatanasapt, Supanee Sriamporn, Patravoot Vatanasapt: Cancer Control in Thailand, Jpn J Clin Oncol, 32(Supplement) S82-J91 (2002)
- 厚生労働省, 各国にみる社会保障施策の概要と最近の動向 (タイ) <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kaigai/08/dl/29.pdf> [2012-9-15現在]